

令和元年 第2回定例会

(6月20日)

一般質問資料

(2回目)

自由民主党千葉市議会議員団
向 後 保 雄

令和元年 第2回定例会（6月20日）

一括質問

通告時間：25分

1 高齢化対策としての公園での健康器具の設置について

ご答弁ありがとうございます。ご答弁によれば、千葉市の設置率は9パーセントということですが、近隣市の状況を調べたところ、習志野市は5.8パーセント、四街道市は3.1パーセント、八千代市は16パーセントとのことです。一概に本市の設置率が低いとは言えませんが、是非とも積極的に設置をお願いします。韓国の全ての公園にはスライドを見ていただいた通り健康遊具が設置されているわけですが、この背景には2018年の韓国の、一人の女性が生涯に産む子供の数、いわゆる合計特殊出生率が世界で最低水準の0.98となったとのことで、韓国の高齢化が予想よりも早く訪れるとの予測の下でのことだと思えます。我が国も少子超高齢化社会に向かっているわけですから、千葉市としても高齢化率の高い、若葉区の公園には積極的に健康遊具を設置していただきたいと思えます。

しかしながら、健康遊具の値段は非常に高いようで、ご答弁にありました、背伸ばし運動ができるベンチは483,000円で、工事代を入れればさらに高くなるということで非常に高額なためになかなか設置が難しいのかと思えます。繰り返しになりますが、以前某建築会社が子供の遊具を寄贈してくれたとの経緯もありますので当局に置かれましては、様々工夫しながら設置に向けて努力していただくよう要望致します。

また、ご答弁では、利用率の調査が難しいようですが、使い方がわからないと使ってくれないと思いますから、(スライドを示す) このように使い方がわかるように何らかの方法で表示していただくことを要望致します。

2 高齢者の健康増進としてのフレイル予防について

次に高齢者の健康増進としてのフレイル予防についてですが、ご答弁ありがとうございます。フレイル予防対策については、さまざま実施しているとのことご答弁でした。また、あんしんケアセンターにおいて、国保部門と連携して、特定健診を受診した65歳から74歳の高齢者のうち、肥満度を表すBMI(ビー・エム・アイ)を活用して、低栄養が疑われる方を抽出して、25項目からなる基本チェックリストを用いてスクリーニングを行い、低栄養リスクの高い方に対して、個々の高齢者の状態に応じて、予防プランの作成や保健福祉センターの介護予防事業の紹介等を行い、フレイル予防を行っているとのことですので、既にフレイル予防をしているとのことご答弁であると理解を致しました。

しかし、千葉県高齢者保健福祉推進計画・第7期介護保険事業計画の中には、「自立支援と重度化防止」の中の「課題」において「フレイル」という文字が出てくるだけなので、もっと市民に「フレイル」とはどのような状態のものかを理解してもらえる事業を実施し、この計画の市長の冒頭あいさつ文の中にあるように、少子超高齢化問題を高齢者が、「我が事」としてとらえ、元気な高齢者が、「支える側」としていかに楽しく健康増進活動を継続してやっていける意識を持ってもらうことが重要であると考えます。千葉県内では柏市では

すでに50名のフレイルサポーターが活動しておりますし、市川市では今年度予算案を作成し、次年度から本格的な取り組みに入るとの事です。フレイル（虚弱）とは、健康な状態から要介護の間にあって、少しでも健康な状態に戻ることが目的として、「栄養」「運動」「社会参加」をサポートする活動です。

真の「医療制度改革」は、医療費の自己負担を増やすことではなく、医療の世話にならない状態の高齢者を増やすことと考えるので、本市に於いても、柏市のように市民が自らフレイル予防を実施できるような仕組みづくりを強く要望致します。

3 高齢者の介護施設における虐待防止について

最後に、高齢者の介護施設における虐待防止についてですが、ご答弁ありがとうございます。ご答弁によれば、昨年度では13件の相談があり、虐待があったと認めたケースは6件あったということです。そして、市が直接調査をし、施設に対して改善策を速やかに講じるよう勧告等を行っているということで、その後もその改善策の実施状況やその効果について報告を求めているということですので、感謝いたします。

私が相談を受けた件については、市の担当者も現地調査を行ったそうですが、利用者側と施設側で事実関係を巡る見解の不一致があり、記録がないこともあって事実関係の認定に至らなかったと聞いています。

このように、利用者と施設側とで「言った・言わない」になってしまい、両者間の信頼関係がなくなってしまうえば、サービスの利用にも影響しかねません。

サービス提供に関する説明責任を有しているのは施設側でありますから、利用者との信頼関係が構築できなかったことを重く見て、利用者に説得力のある十分な説明が出来るよう記録をしっかりと残すことや、現場職員の資質向上、組織的な対応の在り方について検討するよう指導することを強く要望いたします。

二つ目の、潜在的に表に出てこない事案についての対応についてですが、結局介護施設で働くヘルパーさ

ん等の介護従事者が、どういうことが虐待になるのか自分がしていることが虐待にあたるんだと認識してもらう為の研修を定期的に実施しているかを指導監督するとの事ですから、是非ともこれは確実に実施していただき、虐待が起こらないようお願い致します。今回の事例も、虐待の事実はありませんと施設が言っているとの事ですから、虐待行為の認識違いがあるのではないかと思いますので、今回の施設に対しては特に研修が実施されているのかの実施事実の確認をもう一度お願いします。

2025年には団塊の世代が75以上の高齢者となる少子超高齢化時代を迎えるわけですから、虐待相談が益々増える可能性がありますので、今から確実に対応策を実施していただくことを要望して私の一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。